

東由利村報

No. 111 1966 · 10 · 1

発行 東由利村役場 毎月1日発行 定価1部5円
印刷 KK本間印刷所

第6回定例議会

下中音楽室の新築きまる

第6回定例議会は、9月20日招集され、審議された議案は次のとおりで、いづれも原案どおり可決された。

○東由利村と秋田県との間の公平委員会の事務の委託に関する規約の一部を改正する規約

○昭和41年度東由利村一般会計補正予算（才入才出223万5千円が追加補正された）

才出の重なものは、下中音楽室建設費、山崎児童館工事請負費などである。

○東由利村簡易水道特別会計追加補正34万8千円

○玉米財産区特別会計、追加補正、58万4千円

○教育委員会の委員の任命
9月30日任期満了の教育委員会委員の任命につき同意を求ることについて

青木芳雄氏の任命に同意
○白ヶ沢林道の併用林道協定書の変更

○下中の音楽室の建設につい

ては慎重を期するため、議員全員が現地調査の上、原案どおり決定、年内完工を期して急ぎ着工することにした。

常任委員・委員長選任

○印委員長○印副委員長
総務委員

○岳石伊左武郎○長谷山千代
藏、小松与惣、長谷山喜
市郎、高橋俊一、阿部次郎
産業経済委員

○小松真一○小野作右工門、
佐々木宇一郎、小松豊、佐
藤吉郎、工藤二三郎

教育民生委員

○伊東与吉○佐藤要次、渡辺
与七、加藤清、遠藤二三郎
土木委員

○佐藤謙吉○梅津二三郎、川
尻幾郎、遠藤兵一、長沢毅
陳情書

○村営仔牛育成所貸付のお願
小松哲郎外3名
採択、産業経済委員会付託。

内県議会議員も特別参加されて、午後1時30分大琴着、直ちに稚蚕共同飼育所を視察し基盤整備地区の稻の作況を見ながら、西の浜の高所より、整備地区の全容を一望のもとにながめて午後2時半よろこんで帰られた。

この日知事は、西目村開拓20周年記念式典に参列の帰途寸暇をさいてわざわざ立寄られたもので、我が村に対する知事の温情に関係者一同深い感銘に打たれた。

10月1日から

赤い羽根 共同募金

赤い羽根共同募金運動が今年も10月1日から全国一せいに始まります。この運動は今年で20年目をむかえ、毎年皆様のご協力により、目標額を上まわる成果をあげています。募金の目標も毎年少しづつ多くなり、今年は県の目標額3200万円、当村は20万7100円（昨年は19万4100円）です。このうち4割は県の募金会から村に配分されてきますので、これは村の社会福祉協議会の主な収入となり、村の補助金と合せて色々な事業を行っております。

その重なものは、修学旅行や、困っている児童生徒への補助8万円、身障協会、未亡人会、遺族会などの団体育成費7万5千円のように使われております。

こうしてこの募金は、気の毒な人たちを助けるために、なおまた、私たちのまわりにある不幸をひとつひとつとのぞく重要な役割をはたしているのです。

明るい、住みよい社会をづくりために、今年も一そうのご協力を願いいたします。

秋の交通安全 旬間がはじまる

10月11日から20日まで

△恐ろしい交通事故

交通事故による死傷者は急激にふえ、県内だけでも、今年1月から8月までの間に、すでに2,010人、昨年同期にくらべて214人もふえています。

我が村は107号線の中でも特に交通事故の多いところで今年になってからだけで、死者3、重傷3、中傷3、交通規則違反（よっぽらい、無免許）50件余を出しています。

△やれば出来る事故防止

交通事故防止は世界のねがいだ。が、これというきめ手はどこの国にもない。しかしやれば必ず出来ます。ただ一人一人の固い決心と団結の力が必要だ。今年の春の旬間に新町のかあさん達が相談して、かわるがわる10日間を街頭に立ちつけた。それからあと、あれだけ道一ぱいに遊んでいた子ども達が、一人も道路で遊ばなくなってしまった。「おおいなる哉母の力」と、頭がさがる。

△運動の重点を家庭に

この運動は全村民一人残らずみんなでやらなければならないが、今回は特に家庭に重点をおく。

1、あなたの子どもは今、どこで何をしているかを知つておく。

2、道を歩く時は、子どもをあなたの右の方に。

3、幼児の一人歩き、飛び出しが一番あぶない。

△学童生徒へのねがい

あなた方は村での一番大きな集団だ。学校では交通道徳や規則を村民の誰よりもよく勉強し、家に帰れば子ども会などで事故防止に活動する。一番まじめで一番実行力のある人達だ。

その実績は交通安全協会から表彰されるまでになっているが、あなた方一人のいのちが、国のためにもいかに大切であるかも考えて、今まで以上努力するよう大きな期待をかけてお願いする。



県知事の

構造改善地区視察

9月19日、県知事が構造改善事業の成果視察のために来村された。

視察中の知事
左から3人目

さきがけ農業座談会

稻刈が始まつたが多数参加

さきがけ農業座談会は15日午後1時半から役場で開いたすでに稻刈が始まつて忙しい折ながら、農業、畜産の精鋭が多数集まつた。

「収穫期の稻作について」県農試經營課長高橋正雄氏、「秋から冬の畜産」佐々木甚太郎氏、「豊かな家計」県専門技術員高橋絹子さんの講演あり、引つき質疑応答に移り、△白葉枯病と肥料の関係減収程度△水銀剤を使った草を牛に食わせると害があるかなどの質問が出された。

これに対し、△白葉枯病は窒素の多い場合にかかりやすいといわれているが、原因防除法ともにまだわからない。

被害がひどいと5割以上の減収になる。△水銀剤を使った牧草は、牛は水銀剤にはごく弱いので、一度雨に洗われた物を喰わせるのが安全である

特に高橋氏の強調されたことは、農業經營の最終目的は「地力を高め生産性を伸ばすことである」地力を養って米の生産を高め、それを蓄積した資本によって、畜産・造林を振興すべきである。

土地の腐蝕質1%を消耗するには10年を要するが、これを回復するには10年かかるもむづかしい。堆肥を十分にいれて地力を高めることに真けんに努力すべきである。

大台部落民の熱の入れ方は大したもので、80名の部落民のほとんど全部が集まり、涙をこぼして映画に感動し熱心に話し合いをした。

上映々画、つるの恩がえし、おむかえ狸・東京オリンピック・県政ニュース・ニューギニヤ高地人

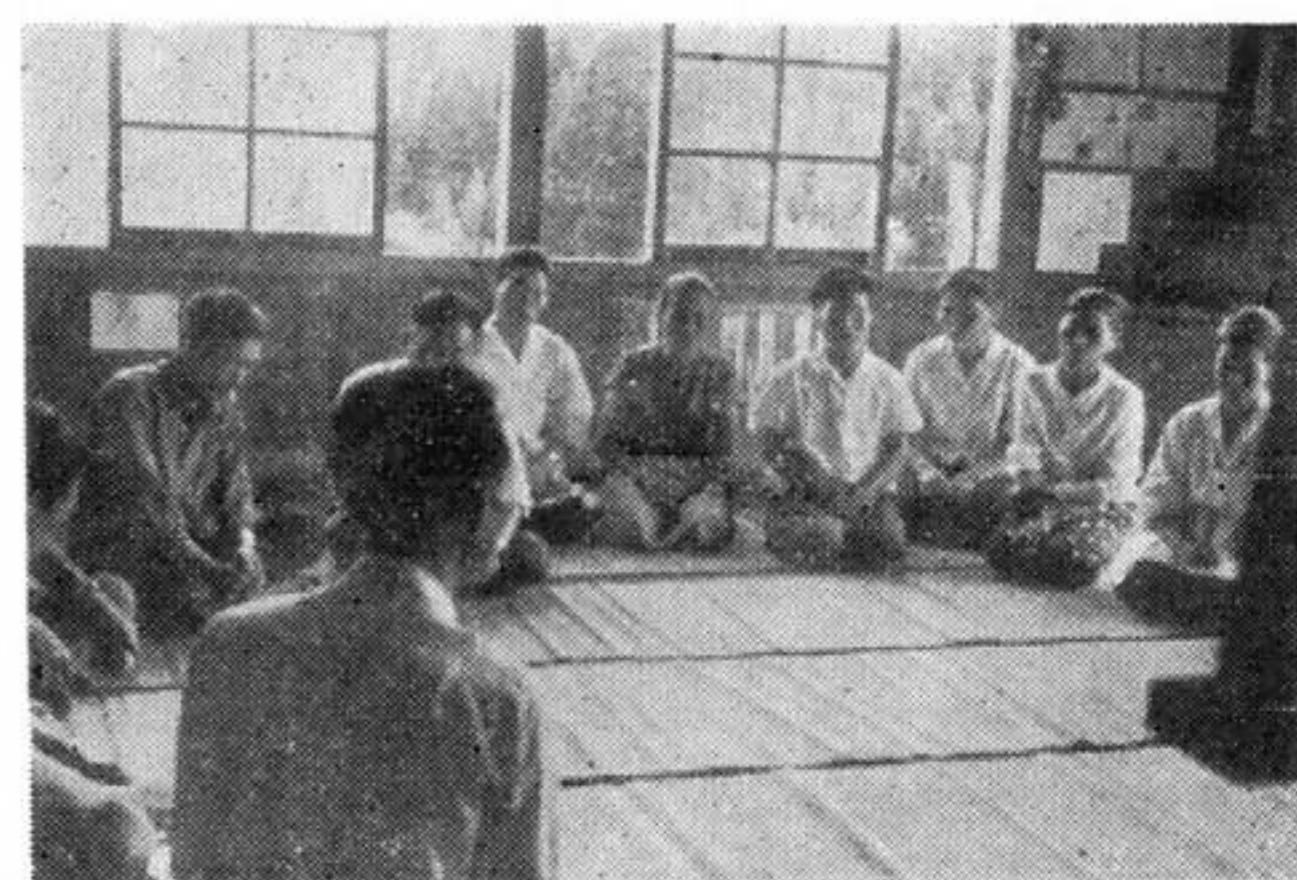


写真 大台移動家庭教育学級

三市八カ町村 道路整備期成会総会

本荘・横手・大曲の3市と東由利・大内・矢島・平鹿・雄物川・大森・羽後・南外の8カ町村で結成している3市8カ町村道路整備期成会の総会は、9月28日秋田市に開催され、市町村長・助役・議長・3市の建設課長・県よりは土木部長が出席して、本荘・

横手・大曲に関連する道路の整備（舗装・永久橋化）の促進について熱心な協議を行った。なおこの会の会長は東由利村長で、従来この運動を強力に推進して来たが、今回の総会に於ても、衆望により引き続き会長に推された。



写真 桑園用地

新らしい大台

桑園と草地

大台には更に大きな新らしい大台が出来た。昨年まで官行造林の大杉林であったところに、巨大な杉の切株は全部抜かれて、桑園用地はすでに整地をおわり、目下草地の整地に2台のブルドーザーが活躍している。

高所の一角に立ってこの広大な開拓地を眺める時、今更に機械力の偉大さにおどろかずにはいられない。

桑園用地は9.3haで内大琴分4.5ha・大台分4.8haである。今年中桑苗55,800本を植えつけ、10坪の壮産共同飼育場2棟が建設される予定で、すでに鉄骨は現場に届いている。

なお沼・土場沢では昨年植えつけた共同桑園の桑で、晩秋蚕を飼育、9月20日頃販売することになっている。

草地は本年度計画16haで、既設草地36haと合せ、東由利放牧場利用組合が運営にあたることになっている。

へき地移動学級開設 9月13日、大台分校

県教育委員会主催のへき地移動学級は9月13日、大台分校で開かれた。へき地の児童生徒及び一般成人を対象に、巡回映画会・移動家庭教育学級を開いて、へき地の教育・生活・文化の向上に役立てようとするもので、県からは仙北谷・渡辺の両先生がお出になつた。

「敬老の日」に考える

秋田県老連会長

佐藤 欣一郎

…4月14日新宿御苑で、佐藤首相は私たちにこういわれた。「老人クラブは全国ご老人を代表する唯一の組織であつて、将来の老令人口増にかんがみ使命は重大だ。みなさんもご健康で、多年の経験を生かし、全国民の手本になって下さい」と。

きいた私はハッと打たれた一というのは、わたしらのクラブのあり方・やり方にあまりはなかつたか。補助や寄付などにたよつて「自主的活動」を忘れ、のみ食いや旅行などを主として、大切な研修を怠る傾向がなかつたか。

本来の使命を果さず、ロク

に会合もせず、何百何千円の旅行費は惜しまず、10円や20円の会費にケチをつけなかつたか。毎会の会合によいお話をきき、お互話し合うのも大切だ。またこの機会に「役立つ老人」として前向きの姿勢で、社会の各階層との話し合いや「奉仕」の具体化なども一層必要ではあるまい。

…人間は不断の勉強と修養こそ、長生きの秘訣とされている。お互の分に応じてこれを実行しつつ、各クラブとの連合体を強化し、さらに県老連・全国老連と堅い連絡のもとに、わたしたちはもちろん後継者の「老後の幸福」もかちとろうではないか。

(県老連会報)

下中講演会 PTA・公民館共催

7月14日、下郷中学校では、三浦正直先生（県青少年対策室勤務）を招いて、「青年前期における生徒の正しい導き方」についての講演会をもよおし、70余名の会員に強い感銘を与えた。

お話を要點

反抗期

子どもの第一反抗期は3、4歳頃にあらわれる。私は反抗期といわぬ。第一独立期といふ。第二反抗期は小学校の後期から中学生時代に著しくなる。私はこれを自覚期といふ。そしてその発達に応じてよりよく伸ばすことにつとめている。

なぜ第二反抗期が起るか

- 1、自分を認めてくれない不満。
- 2、劣等感をかばうための自己防衛

- 3、親や大人に対する批判
- 4、経済的無能力
- 親として考えてやらねばならぬこと
- 1、認めてやる
- 2、正しい愛情ときびしさで接する
- 3、親としての正しい姿勢と行動
- 4、進学と就職
- 親らしい三つの姿勢
- 前向、子どもの話を親身にきく
- 横向、自分の仕事に専念する
- 後向、常に自己修養に努力する
- 明るい家庭づくり～暖かい人間関係造成
- おたがいに {
 - 理解し合う
 - 信頼し合う
 - 話し合う
}
- 一家一郷の和
- 和 {
 - 信じ合い認め合う—承認
 - 考え合い励まし合う—自立
 - 思い合い助け合う—愛情
}



写真宿老人会

老人会二つ

9月24日老人会が二つあった。午前中は藏永慶会で、児童相談員川上芳江先生のお話を聞くことを主として藏立寺で聞かれた。

参会者は36人、青少年の健全育成と老人の役割・老人と孫との部落などを単位とした集団的な話し合い、交通事故防止のために老人は子守役を引受けよう。交通事故を防ぐ上からも酒の飲み方すすめなど話し合った。

午後は宿老人会で、午前中

は梅津千代松会長の体験にもとづくお話を中心に、各自の生活を反省する学習をし、午後は川上芳江先生の児童相談の実例をもとにした親のあり方・家庭教育のあり方についてのお話を聞いた。

引つづきお互の話し合いに移ったが、「若い母親と祖父母との間に子どもの教育について考えがちがって困ることがある。今日のような会は年よりと若い者と一しょにやった方が効果がある」という意見が出てみんなが賛成であり

公民館で主催するように、との要望であった。これは藏の

場合も同様であり、早速実現しようと考えた。



写真稻見風景

「ゆかいな稻見」

作況調査

9月16日調査、調査員は、遠藤徳太郎・佐々木宇一郎・小野作左エ門・高橋重助・渡辺隆蔵・中村普及員。

農協から小松参事・小松富男役場から佐藤勧業・小松社教寅田・宮野

部分的には白葉枯病・不稔粒なども見受けられるが、総体にイモチ病の発生が極少であり、平年作に行くのではない

か。構造改善地区のおそ植は作況が悪いが、平均して7割程度だと思う。

今後の問題点

- 1、施肥設計と品種選定
- 2、出穂後の水管理
- 3、健苗育成と早植
- 4、構造改善地区は今年の作況を地図に記録しておくこと

「密造酒をなくす運動」

ご協力を願います

冷害・水害と騒がれた春以来の異常天候も、どうやら回復したことと、農家の方々の努力がみのって、今年も平年作以上の収穫が確保出来る見とおしこと、これから刈上げ、早場米供出と忙しい日々と思います。

毎年この時期になると密造酒も多く出廻るので、国税庁の提唱により「密造酒をなくす運動」が全国一齊に行われています。

酒類は税務署長の認可がなければ、製造したり販売したりできないことは、すでにご承知のとおりですが、農村には、昔からの因習が根強く残って、取締りの目を盗み、今もなお「どぶろく」に親しんで、暗い生活からぬけ切れな

いところがまだ多く見受けられます。

秋田県の農村も、最近では生活改善や近代化が驚くほど進んでいる一方、いまだに旧来の悪い習慣からぬけ切れないことは、ほんとうにいかんなことです。

このような後進性が、秋田県を「どぶろく王国」にし、農村の発展をおくらせることになります。

この密造酒をなくす運動期間中に、少なくともこの機会にぜひとも密造酒(どぶろく)という、いまわしい習慣を、きっぱりなくし、近代化された明るい農村にしましょう。

(本荘税務署)

たばこは村内で

村にはいるたばこの税金も大きな財源です。ぜひ村で買いましょう。

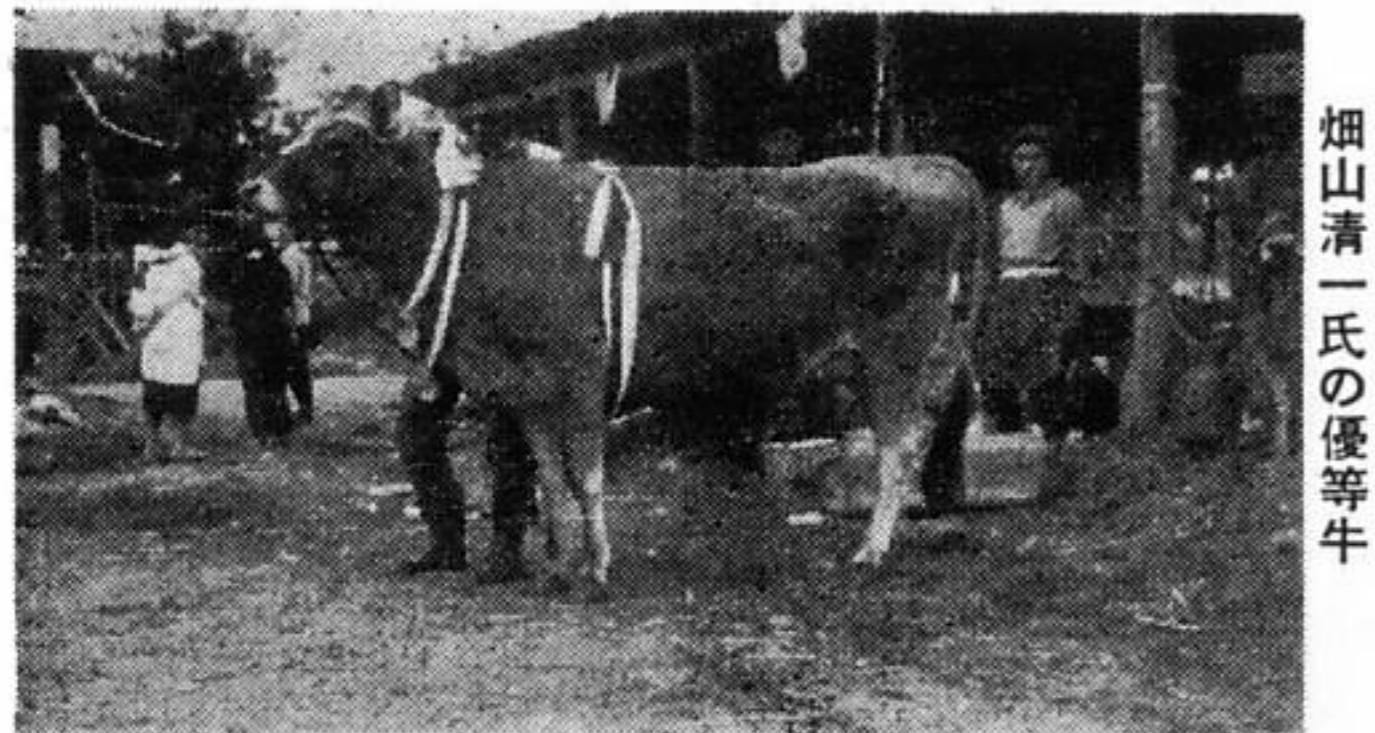
第55回秋田県畜産共進会

本村出陳牛全部入賞

日時、9月10日より12日まで
場所、北秋田郡鷹ノ巣町南鷹
ノ巣
木村出陳家畜、ジャージー2
黒毛和牛 3

受賞内訳

ジャージー優等賞畠山清一
〃 3等賞阿部豊美
黒毛和種 2等 2 佐藤源吉
〃 2等 3 畠山喜一郎
黒毛和種 3等 5 渡辺忠



畠山清一氏の優等牛

10月16日「家庭の日」

忙がしい時です。時候のよい時です。次のようなことの中から「家庭の日」の持ち方を選んだらどうでしょう。



農作業や家の手伝い

- ・簡単な農作業
 - ・家の内外のお掃除
 - ・水くみ、風呂たき
- 本に親しむ

・20分位の時間家族みんなが本を読む

・読んだら1分間の感想発表

自然に親しむ

・家族そろって山で働く

・きのこ・ふどう・あけびなどをとり、野外食を楽しむ

交通事故防止

・どんな時があぶないかを話し合う

・家族はげまし合つて事故防止の実行をする

高圧線に注意

感電事故防止

村内の電圧は改良工事によつて、今までの2倍の6000ボルトになりました。

高圧線の近くで作業することは実に危険です。殊に高圧線のそばの木を切る場合など誤つて電線にふれたり切断したりすると、長時間の停電事故を起すだけでなく、感電死

傷という恐ろしい災害になるおそれがありますので今後電線近くで作業をする人や木を切る人は、必ず散宿所に連絡して係員の指導を受けるようにして下さい。
連絡は出来るだけ早く、日時、場所を電話などでお知らせ願います。

「東北電力」

働きながら進学出来る特別少年店員制度

これは毎日新聞社で厳選した者を、責任をもつて「特別少年店員育成店」に委嘱して働きながら（新聞配達）高校・大学を卒業するまでの面倒を見るものです。

この制度に応募して、勉強をつづけている畠山誠君の、毎日新聞社発行「体験レポート」を次にかかけます。

所属販売店 品川区西上延店
学校名 私立・立正高校（全

日制）2学年

在店年数 1年6カ月

出身地 秋田県東由利村舟木

作業実態 配達部数230枚、

集金100%

就業当時の思い出

- 配達先をおぼえることに苦労した。
- 授業中はねむくて困った。
- 配達先の読者が心からはげ

まして下さった。

如何にして苦難をこえたか
仕事と学習の両立に苦しむ、
どちらを捨てるべきかとなや
み苦しんだ。

これを支えてくれたものは田舎の母からの手紙であつた「自分の成長を神に祈つてゐる母に申証ない」母校の先生や友達の声援にも答えたい。購読者の皆さん、僕の配る新聞を待つてゐる。その期待にそうためには何をおいても仕事と勉強を両立させる事だと心に感じ、一段と努力をつづけているうちに、次第に樂になり、いつとはなしに苦難を乗りこえることが出来た。

将来の希望（進路）

大学進学、卒業後の就職先は平凡な会社員、その他現在の生活は幸思つています。大学卒業までこのよいムードの店でバイトをつづけたい。

店主のことば

人物 明朗快活

学業 優秀

収入 15.000円（住込食費・4500円）

其の他、進学資金貯金中

2級建築士試験合格

7月24・5日の国家試験に次の両氏が合格しました。

阿部悟（岩館）

小松久助（高戸屋）

季節労務に行く人は

役場に相談に来るように

秋田県民の平均所得は毎年ふえて来てはいるが、全国の平均所得とはまだ大きな格差がある。このことが冬期労働の利用から「季節労務」となつて年々ふえる傾向がある。

しかし半年を家族とはなれての就労には多くの問題があるので、ただ「仕事がないから行く」ということだけでなく、よく我が家の営農設計と就労の場所を考えて見て下さい。また、どうしても働きに行かねばならない人は、役場に来てよく相談をし、必要な手続きをすまして下さい。

幸村には「今年も賃金はもらえなかつた」「とんでもないところに連れて行かれた」などという話はきいておりませんが、求人者の甘い言葉に乗せられて手続なしに出て行つて、つまらない目に会つて人の話をきいています。

役場では職業安定所とよく連絡をとりよく調べてもらつて、「これならば心配ない」という場所を皆さんにおらせします。

今月の納税

◎村県民税 第3期

◎固定資産税第3期



写真 石沢青年会

石沢青年会の視察

9月9日石沢青年会長畠山洋三以下会員15名は、公民館主事田村修一氏と共に、本村構造改善の実情視察に来村、経済課長・小松社教主事・寅

田・伊東君の案内で、沼・土場沢・大琴の養蚕施設、基盤整備地区の視察をなし、午後は役場で村長から村行政に対する説明を聞いた。